

北のごはん倶楽部



News Letter

vol. 27

OCTOBER 2019 令和元年10月発行



ホクレン 農業協同組合連合会

●米穀事業本部 米穀部 主食課
〒060-8651 札幌市中央区北4条西1丁目
TEL:011-232-6233 FAX:011-242-0135
<http://www.hokuren.or.jp>
●北海道米販売拡大委員会
<http://www.hokkaido-kome.gr.jp>

CONTENTS

● 特集

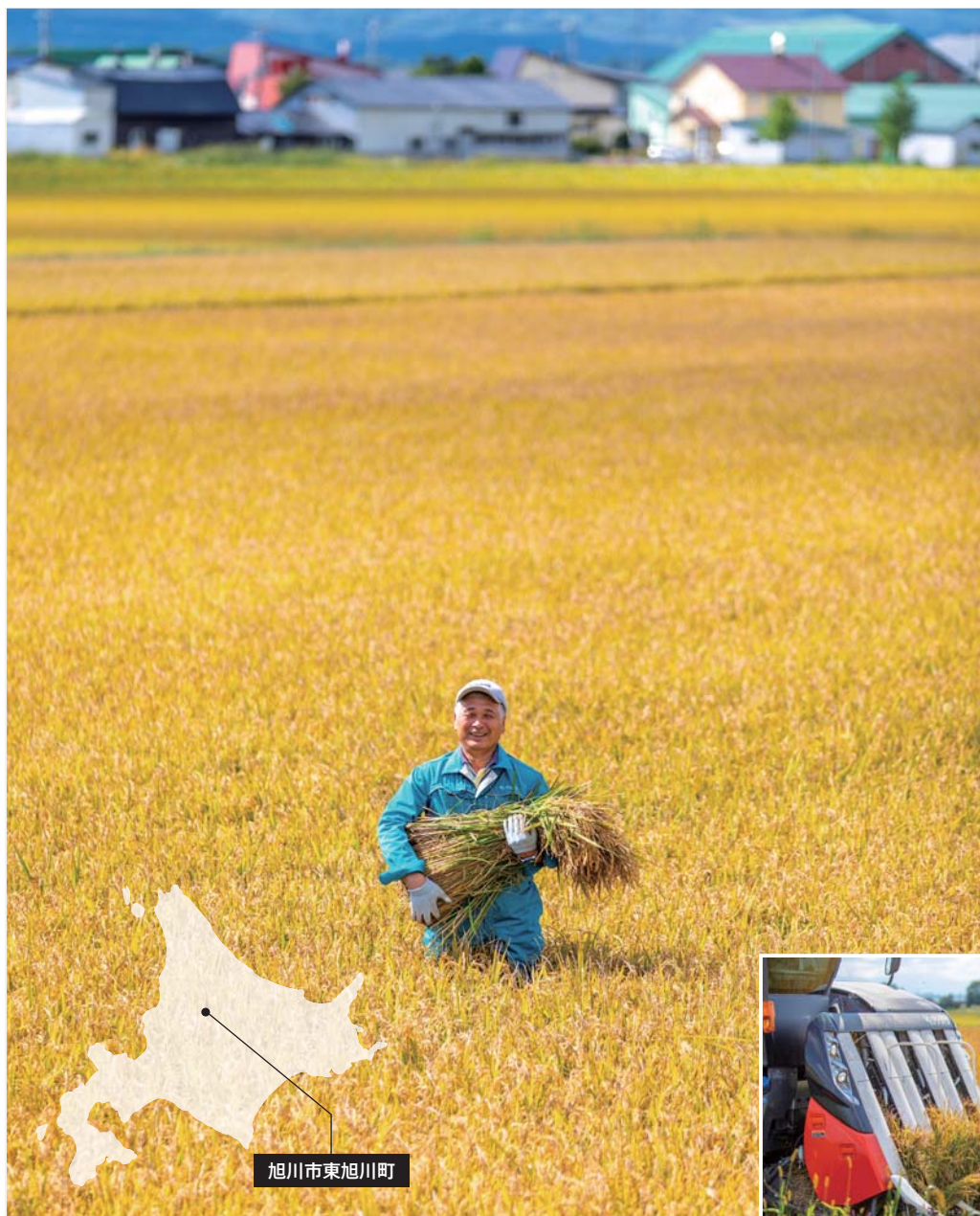
令和元年産「ゆめぴりか」北の大地から皆さまの食卓へ 1

生産者自らが守る「ゆめぴりか」品質 2

おいしい北海道米 & おいしい理由を日本全国へ届けます。 3

● Topics

「ゆめぴりか」の新 CM が完成 4



北海道米の新たなブランド形成協議会
会長 佐野 彰俊氏



令和元年産「ゆめぴりか」 北の大地から皆さまの食卓へ

9月中旬、道内でも有数の米どころ上川地区では、収穫作業のピークを迎えています。秋晴れの中、旭川市にある佐野彰俊氏の圃場では「ゆめぴりか」、「ななつぼし」の収穫中。佐野氏は「北海道米の新たなブランド形成協議会」の会長も務めています。今年の米作りと「ゆめぴりか」にかける生産者の思いを伺いました。





特集

令和元年産「ゆめぴりか」
北の大地から皆さまの食卓へ

生産者自らが守る「ゆめぴりか」品質

北海道米の新たなブランド形成協議会
会長 佐野 彰俊氏

収入は減っても「ゆめぴりか」の基準は変えない

黄金色にたなびく稲穂をコンバインで刈り取っていく佐野氏。少しホッとしたような穏やかな表情です。

「昨日『ゆめぴりか』が終わって、今日から『なまつぼし』の収穫です。間違いなく昨年よりはいいですね」

昨年、平成30年産の北海道米は天候に恵まれず不作。佐野氏も例外ではありませんでした。「ゆめぴりか」を作り始めて8年、初めてのことだったといいます。6～7月の低温、日照不足で、苗が株分かれて茎を増やす「分けつ」が抑制され、穂数、粒数が少なくなったのです。しかし、今年は気候に恵まれ、順調に生育。稲穂は重そうに頭を垂れています。

佐野氏は生産者が中心となって「ゆめぴりか」の品質を守るために結成された「北海道米の新たなブランド形成協議会」の会長を務めています。「ゆめぴりか」には精米蛋白基準7.4%以下などの基準があり、基準を満たした「ゆめぴりか」には

米袋に認定マークが付いています。平成30年産の「ゆめぴりか」は収量が少なく、基準外のお米も多く出てしまいました。

基準外のお米は基準を満たす「ゆめぴりか」よりも低い価格となり、生産者の収入は減少。しかし、「北海道米の新たなブランド形成協議会」を構成する生産者たちから、基準を変えようという声は一切ありませんでした。

「いい年も悪い年も基準値は変えない。決まりを守っていくのが、北海道米の信頼の証になる。米の産地として生き残るには、そういう気構えじゃないとやっていけないって、みんな思っているんですよ」

北海道米の新たなブランド
形成協議会認定マーク

精米蛋白基準などのルールに基づいて出荷されたおいしい「ゆめぴりか」の証

北海道を代表する米を作る誇りを持って

佐野氏は農家の3代目。米作りに携わって35年になります。始めた当初は、北海道米がやっかいどう米、猫またぎ米と呼ばれた時代で「おいしくない」といわれながら作るのは本当に辛かったといいます。しかし、昭和63年に誕生した「きらら397」によって北海道米は大幅にイメージアップ。米作りに手応えを感じるようになりました。現在は30haの圃場のうち、低蛋白になりやすい土壌を選び、4.5haで「ゆめぴりか」を作っています。

佐野氏によると「ゆめぴりか」はもともと多収で蛋白値が上がりやすく、良食味のために低蛋白にするには、施肥や水管理などきめ細やかな管理が求められます。

「ここまでがんばれるのは、地域や『北海道米の新たなブランド形成協議会』など同じ目標を目指す仲間がいるからこそ」と語ります。

「この辺りはみんな圃場の面積が広くて、機械も入れている。

切磋琢磨して取り組んでいます。特に『ゆめぴりか』は低蛋白じゃないと『ゆめぴりか』じゃないから。『ゆめぴりか』作りは繊細で難しいけれど、北海道を代表する米を作るという誇りを持って取り組んでいます」

「北海道米の新たなブランド形成協議会」では「ゆめぴりか」の新たな取り組みの一つとして、5年間継続して基準をクリアした「ゆめぴりか」を出荷した生産者を、来年の春に表彰する予定です。該当する生産者を讃えるとともに、その技術を広く共有していきたいと考えています。

「昨年のような不作の年でも結果を出せる生産者は、北海道の米作りの匠として誇れる存在だと思います。自分はダメだったんで、まだまだなんです(笑)」

北の大地で真摯に米作りに取り組む生産者が、「ゆめぴりか」の品質を支えているのだと感じました。

おいしい北海道米 & おいしい理由 を日本全国へ届けます。

ホクレン農業協同組合連合会 米穀事業本部 米穀部 主食課
課長 熊谷 和也



良食味の令和元年産北海道米にご期待ください

農林水産省発表の令和元年産水稻、北海道の作況指数は105で「やや良」(9月15日現在)。昨年、平成30年産水稻の北海道の作況指数は90で大不作。供給不足となり流通や消費者の皆様にもご迷惑をおかけしましたが、今年は昨年以上の数量をお届けできそうで、安心しているところです。

昨年、平成30年の不作は、6～7月の低温、日照不足が原因でした。近年、北海道は6月に低温になることが多いのですが、平成29年までは7年連続で豊作でした。平成29年も6月は低温だったのですが、7月に入った途端30℃超えの日が続き、6月の生育の遅れを一気に挽回しました。平成30年は、7月上旬

まで低温が続き、生育の遅れを回復できなかったのが原因と考えています。

平成30年産においては基準を満たす「ゆめぴりか」は前年の約1/3に満たない量しか確保できず、需要に応えることができませんでした。令和元年産では基準を満たす「ゆめぴりか」を最大限確保して、この1年間「ゆめぴりか」を待ち望まれていたお客さまにきちんとお届けすることを第一に考えています。平成30年産は「ななつぼし」も供給不足でしたが、令和元年産では、質量ともにおいしい北海道米をお届けします。

「合組」は令和元年産も継続

今年1月より基準に若干満たないゆめぴりかと「ふっくらんこ」をブレンドした「合組」の販売を開始しました。米業界ではブレンド米によくイメージがなく、発売当初は不安の声も聞かれましたが、販売の現場や消費者からは先入観なしに受け入れていただけました。味には自信があったので、店頭での試食販売を推奨したところ購入につながり、リピーターも増えています。最終的には100を超える企業・組織に「合組」をお取り扱っていただけました。

「合組」は令和元年産も平成30年産同様、ゆめぴりか9：「ふっくらんこ」1の割合で販売を予定しています。

なお、令和元年産の「合組」は「ゆめぴりか」の品質状況などを踏まえ、数量、エリア、期間などを考慮した上での販売を検討しています。

合組(ごうぐみ)

ゆめぴりか9：「ふっくらんこ」1

時間が経過したあとも粘りが持続。2品種の特長が引き立ったお米で、ご家庭やお弁当など、普段使いにおすすめ。



生産から流通まで、欠かせない銘柄となった「ゆめぴりか」

「ゆめぴりか」の供給不足と新ブレンド米「合組」の発売にあたり、ホクレンでは流通関係者の方々に個別に説明を行いました。「ゆめぴりか」の認定マークや生産者の取り組みについて説明したことで、改めて「ゆめぴりか」の価値を認識された方も多かったようです。

「ゆめぴりか」は平成22年の全国デビューから9年が経過。消費者の方々からの認知度も高まり、流通の方々からも“欠か

せないアイテム”との評価をいただいております。また、生産側においても、ようやく確立したブランド米であり、これを守っていくことが私たちの使命と考えています。基準外のゆめぴりかが流通することで「ゆめぴりか」の価値を貶めてはなりません。「ゆめぴりか」のみならず、他府県産のブランド米全てに悪影響を及ぼしかねないと考えています。

「ゆめぴりか」にかける思いを発信し続ける

北海道米の豊作が7年間続いたことで、生産者も我々も「ゆめぴりか」があって当たり前のように思っていたのかもしれませんが、北海道では田植えは5月中に終わらせるよう推奨されていますが、平成30年は6月に入っても田植えをしているところが見受けられました。5月中に田植えをすれば、6月に低温に見舞われたとしても、根がしっかりとほっているので被害を抑えることができます。令和元年では6月に入って田植えをしているところはありませんでした。天候がどうあれ、今年こそおいしい「ゆめぴりか」を消費者に届けたいという生産者の思いが強く伝わってきました。

生産者や北海道の関係者には当たり前でも、流通や消費者に伝わっていないことがたくさんあります。「ゆめぴりか」の

基準などのおいしさを守る取り組みや生産者の思いをさまざまな方法で発信していきます。ともに「ななつぼし」、「ふっくらんこ」など北海道米全体のPRにも力を入れていきます。

「ゆめぴりか」を守る取り組み

- ブランド米としての「ゆめぴりか」の販売は蛋白7.4%以下を基本とする。
- 安全・安心確保に向け、「栽培協定」の締結、種子更新率100%の遵守、銘柄・等級検査の実施に取り組む。
- 良質米生産に向け、栽培適地での生産、適切な水管理、施肥設計、および防除を行う。

北海道米の新たなブランド形成協議会

Topics

「ゆめぴりか」の新CMが完成 令和元年もマツコ・デラックスさんが出演

帰ってきた「ゆめぴりか」と“謎の店主”

今年の「ゆめぴりか」CMのテーマは「帰ってきたゆめぴりか」。昨年は、天候不良のため、厳しい基準をクリアした認定マーク「ゆめぴりか」の出荷がとて最少なく、消費者の皆さまにお届けすることができませんでした。しかし、令和元年の今年も、多くのお客さまにおいしい「ゆめぴりか」をお届けできそうです。

そこで、「認定マーク『ゆめぴりか』が帰ってきました」「お待ちせしました!」というメッセージを伝えるべく、「ゆめぴりか」の化身であるマツコさんが、再び、あの“謎の店主”がいる店に帰ってくるという設定にしました。“謎の店主”は、初代の「ゆめぴりか」CMから出演。いつしか姿を消していましたが、3年ぶりに復活しました。“謎の店主”は実は素人さんなのですが、マツコさんや監督が緊張をほぐしたせいか、味のある演技を披露。マツコさん扮する「ゆめぴりか」と、“謎の店主”の味わい深いやりとりにご注目ください。



● 放映期間 令和元年10月19日(土)～

● 放映エリア(一部地域では放映期間が異なります)

北海道・東京都・茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・神奈川県・静岡県・愛知県・岐阜県・三重県・滋賀県
京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県・広島県・岡山県・香川県・高知県・福岡県・鹿児島県・沖縄県